

どうも、和佐です。

前回の記事で、原田さんがプロローグとして、
「創造的破壊の意味」を話してくれました。

- ・なぜ創造的破壊という視点が必要なのか？
- ・今、世の中はどう変化しようとしているのか？
- ・情報過多になっていく一方のこの時代で、
どうやって生きていけばいいのか？
- ・その他大勢に埋もれることのない、特異な存在に
なるにはどうすればいいのか？

などなど、これらは、ビジネスを仕掛ける側の
僕らにとって現実的な言葉に言い換えると、

「如何にして、大ヒットを生み出すのか？
如何にして、衝撃的なデビューを果たすのか？」

ということになります。

結局、ビジネスが上手くいかない理由は、

他のビジネスに埋もれて、目立たないから

この一言に尽きます。

例えば、集客が上手くいかないのも、他に埋もれてしまい
話題にならないからや、アクセスが集まっても、記憶に
残らないからです。

手法やテクニックは、数々あって、昔はそれらを利用する
だけで、ある程度上手くいっていたけど、
今はもうテクニックだけでは、上手くいなくなっている。

強烈な「差別化」が必要になっている時代だといえます。

他と何が違うのか？

これが明確なだけで、テクニックの威力は大きく増し、
口コミなどの波及効果も見込めるようになり、一気に

大きな影響力を持って、プロモーションを行うことが可能となるわけです。

今後、どんどんライバルは増え、差別化が難しくなるのは目に見えています。

そんな中、「創造的破壊」という視点は、まさに破壊的なインパクトを生み出すことと、新しい価値の創造を可能とするわけです。

「如何に面白いものを世の中に出すのか？」

結局、マーケティングやコピーライティングなんて、ただこれだけのこと。

だからこそ、具体的なメソッドとして、創造的破壊の手法を学ぶべきであると、僕らは考えているのですが、いよいよ、今日から、

具体的な創造的破壊メソッドの公開

がスタートします。

詳しく言えば、これから4本の音声セミナーが順番に公開されていくのですが、まさに、創造的破壊というコンセプトの如く、

今までに無い、破壊性と創造性に満ちた音声セミナーになっています。

僕も改めて収録した音声を聞いていて、これほど面白い対談は、かなり珍しいと感じています。

手前味噌な言い方ですが、

「和佐×原田の組み合わせは、面白い」

と、心の底から感じています。

さてさて、前置きはこれぐらいにして（笑）

そろそろ、1本目の音声セミナーを公開したいと思います。

今回公開する音声セミナーのタイトルは、

■『脱・テンプレート思考』～なぜあなたは埋もれてしまうのか？

です。

「マーケティング」とか、「経営戦略」のような、狭い世界観ではなく、もっと広い世界観で話が展開しているので、色々な意味で面白い音声だと思います。

マーケッターとか、経営者とか、そーゆー枠組みを取っ払って、

自分自身で何かを仕掛けていこうとしている全ての人々

に、聞いて欲しいと思います。

音声はこちらです。

<http://djj6ffmx9repg.cloudfront.net/HAKAI01-Anti-template.mp3>

．．．．

さてさて、音声を聞いてもらったら、次はお願いがあります。

ブログに音声の感想と、質問を書き込んでください。

何のためかといえば、このプロジェクト自体のディティールを向上させるためです。

要するに、聞いている人の意見を取り入れながら、細かい部分の微調整をしたいのです。

僕らは情報を発信する側として、考えていくべき事は、やはり、受け手がしっかりと情報を受け取ってくれているかということです。

非常にデリケートな問題で、実際のところ、他人の心は読めないで、どう感じているのかや、何を考えているのかは、永遠に把握することは出来ません。

他人の頭の中をのぞくことは出来ないのです。

とはいえ、僕らは、そんな理解不可能である、他人の頭の中を1%でも多く理解し、そして、発信するメッセージの微調整をする必要があるのです。

誰でもそうですが、興味の無い話しは聞きたくないわけで、僕らは、相手の興味や、意識していることを察知して、相手の持つ考えやアイデアから、話していく必要があるのです。

例えば、

「楽しんで儲けたい」

と、思っている人に対して、

「10億円企業の作り方」

を、話しても、やはり興味を持たないわけです。

だからこそ、相手の知りたいこと、聞きたいことを知った上で、ストーリーを進めていかなければならない。

今回僕らは、創造的破壊プロジェクトで、

個人が自分自身をプロデュースして、
短期間でありえないような結果を出すための
強烈な差別化メソッド

を、公開していきます。

これが、創造的破壊メソッドです。

僕らの目指す未来は、小回りの利かない、創造性の乏しい、企業や組織が勝つような世界ではなく、破壊性と創造性を合わせ持った、

真にクリエイティブでアクティブな「個人」がビジネスでも、自己表現でも、メディアとしても勝つ世界です。

極端なことを言えば、

「面白くな奴は消えてしまえ！」

と、言いたいわけです(笑)

ビジネスを仕掛ける側の論理として、如何に差別化し、如何に相手の記憶に深く居座り、如何に選ばれるかという視点で物事を考えていく必要があります。

それが、一言でいえば、

「面白さ」

だということです。

このプロジェクトをより面白くするには、もっと細かいディテールまで、芸術作品を作り上げるかのように、アホほど拘り抜いて行かなければならないと思っています。

僕らは2人とも、マーケッターというよりも、クリエイター気質な人間です。

原田さんも言っていましたが、正直、お金を儲けることは苦手です。

思い返してみれば、もっとうまくやれただろうと思いますし、数々の失敗や損を繰り返してきました。

頭ではわかっているのです。

「こうやった方が儲かる」と。

でも、

「でもこれって、面白くないよね？」

と、心の声が拒絶するわけで、面白くなるのなら、
儲けなんて少なくてもいいんじゃないかという、
悪魔の囁くが僕らを導くわけです（苦笑）

だから、お金儲けの方法であれば、もっと上手い人がいて、
僕らなんか比べ物にならないほど、多くのお金を儲けて
いますから、その人から学んだ方がいいかもしれません。

僕らの目指すものは、単純なお金儲けではなく、常に、
古いものをぶっ壊して、新しいものを創造するような、
ある意味、無駄なエネルギーを持った人達の作り出す、
自由な世界です。

ハッキリ言って、これは効率的なビジネスとは言えません。

だって、創造的破壊には、様々な困難や、摩擦があるから。

でも、創造的破壊を成した、その後の世界には、まさに
「自由」という、僕らの人生を楽しいものにする、
最高の遊び場が登場するわけです。

僕はビジネスライクな話が得意じゃないし、実際、あまり
話しません。

だから、抽象的に聞こえることも多いでしょう。

でも、答えを教えることや、知ること、集めることが、
創造性を高めることにはならないのです。

結局、自分の頭で考え抜いて、どれだけ汗をかいたか、
いや、鼻から血が出るぐらい、考えたかどうか、
「創造性」を高める唯一の方法なのです。

であるなら、僕は答えを教えるのではなく、ビジョンを共有し、
考えてもらうことを優先します。

だから、単純に、あなたが何を感じ、何を考えているのかに
興味があります(笑)

ブログにコメントをしてくれれば、それだけ僕らにあなたの考えが伝わり、ディティールに拘ることが出来、そして、一緒に、目指すべき未来を目指せるのかなと思います。

ぜひ、コメントをしてください。

1. 1本目の音声セミナーを聞いた感想
2. 思い浮かんだ質問・疑問

この2つだけでOKです。

ある意味、これも創造的破壊の訓練になるかもしれません。

なぜなら、

「数あるコメントの中で、目立つ」

ということを考えれば、当然そこには差別化が必要であり、常識を覆すような破壊性と、読み手を驚かせるような創造性が必要だからです。

まあ、練習だと思って気軽にやってもらえばいいのですが、思考として、ぜひ、如何に目立つのかを考えてみてください。

いきなり訓練もなしに、実践でやろうとしても、当然、失敗します。

「イメトレ」だけでは、上手くいかないことの方が多いのです。

というわけで、実践あるのみです(笑)

コメント楽しみにしています。

次の音声セミナーは、2月11日か12日に公開する予定です。

では、また！

和佐大輔

PS.

まさに時代は、セルフプロデュースの時代です。

いや、正確には、自分であろうと他人であろうと、
プロデュース力に長けた人間が生き残っていく時代です。

僕ら2人は、「自分」をプロデュースしました。

もちろん、コンサルタントとして、他人もプロデュースしている
わけですが、そんな時、つくづく思うことは、

「セルフプロデュースが出来れば、他人をプロデュースすることも簡単」

だということです。

創造的破壊メソッドは、「究極のデビュー戦略」という
風にも言い変えることが出来ますが、自分自身を客観的な視点で
プロデュースすることは、1番難しく、高度なことなのです。

だから、この創造的破壊メソッドを学べば、自分自身の
プロデュースはもちろんのこと、他人のプロデュースも
驚くほど簡単に行えるようになります。

面白い作品を次から次に生み出せるようになるのです。

まだまだ、2本目、3本目、4本目と音声セミナーは
続いていきますが、これらの音声で公開されることは、
あなたのプロデュース力を飛躍的に向上させ、結果として、
市場に求められる「価値」を生み出せるようになるでしょう。

下手なプロデューサーの作った商品と、
敏腕プロデューサーの作った商品では、
当然、売れ行きに雲泥の差が出るわけです。

じゃあ、どうやって演出し、プロデュースしていけばいいのか？

それを、また次の音声で詳しくお話して行きましょう。

お楽しみに... ^ ^